

水管理のポイント

		5月				6月				7月				8月					
水管理																			
主な作業	秋の土づくり	春の土づくり	元肥	代かき	イネミズウムシ 紋枯いもち病防除	田植（移植）	雑草防除	調整肥	中干し開始		穂肥①		穂肥②		紋枯病いもち病・ カメムシ類防除	出穂	カメムシ類防除	落水	収穫
																穂	カメムシ類防除	水	穫

◎田植後の 水管理

早期に有効な茎を確保し、乳白米・未熟米を減らすため浅水管理に心がける。
(除草剤散布後は7日間は、落水、かけ流しはしないでください。)

◎中干しとその後の水管理

○時 期 ①1株あたり茎数14～16本（目標茎数の80パーセント）
確保できれば開始する。→茎・籾数が多いと乳白米に
がる。田植後 30 日がめやす。

②過度の中干しは根を傷めるので、ほ場に弱いヒビ
る程度の中干しを2〜3回行う。

○**効 果** ①根を深く張らせ、茎を太くし穂揃と稔実が良くなる。
②無効分けつを抑えることにより、適正な粳数になる
乳白米発生の抑制につながる。

③土壤中のガスが抜け、根が健全になる。

○終了後の水管理

急に水を張らずに、走り水程度から徐々に慣らして

つな

が入

ので

$$v_2 < 0$$

◎穂ばらみ期からの水管理と落水時期

○水管理

穂ばらみ期(出穂10日前)～穂揃い期(出穂後5日前後)
穂水といって水が必要な時期。

穂揃い期以降

穂揃い期以降は、水をため続けると乳白米が増えるため間断灌水に心がける。

(足跡に水がたまっている程度で、なくなれば表面に水を流す)

地面が乾きひび割れを起こすと、根が傷み秋落ち等の原因となるので注意する。

○落水時期

落水が早すぎると、登熟不良となり基部未熟や未熟米が多くなります。

また、胴割れも増えるので収穫作業に支障のない限りできるだけ遅らせる。

◎乳白米の被害を防ぐ水管理

●除草剤の処理層が形成された後、浅水管理による早期に有効な茎を確保する。

●中干しや間断灌水の徹底により根の活力を高める。

●落水時期を遅らせる。

2ページ参照